



右) 板の間と畳の間をそれぞれ6帖ずつ合せた12帖の広間。食事をしたり遊んだりゴロゴロしたり…。その時々に合わせて曖昧な使い方ができるのが今の暮らしにはピッタリ。将来は板の間にダイニングテーブルを置き、それぞれの空間を分けて使う事も計画している。

上) ご両親の暮らす大きな敷地の中に並んで建てられた『enの家』。それぞれの暮らしは独立しているが、付かず離れずの関係で親子3世代いつまでも仲良く暮らしていただきたい。

左) 家から一歩外に出れば目の前は季節の野菜が立派に実った一面の畑。計画当初から、暮らしの中に「農」を取り入れ、ゆっくりとした時間の中で伸び伸びと暮らして行きたいとHさんは話していた。

畑と共に、 農のある暮らし

今回ご紹介する『enの家』の周辺でも近年新しい家や大型スーパーが立ち始めましたが、まだどこか懐かしい風景の残る住宅地です。瀬戸川に近いこの場所は、以前はもっと自然豊かで、毎日どろんこになって遊んでいたとHさんが話してくれた事を覚えています。自然の力をとても大切にしているHさんご夫婦は、この場所に小さくても豊かな木の家を建て、子供達やご両親と共に伸び伸びと暮らしていきたくと考えられていました。

『enの家』はご両親の暮らす敷地の中に建築されました。元々畑で使う農耕機置き場となっていた場所を整地し、ご両親の住む母屋と並ぶ形で計画されました。お互いの家はそれぞれ独立した機能をもっていますが、付かず離れずの関係で、お互い協力しながらひとつの敷地の中で暮らす事になりました。元々農業を営むご両親の敷地は、写真でも解るように半分以上を畑として利用しています。ご両親は以前から兼業で農業を営み、お父さんの定年を期に本格的に敷地の中に畑を作られたと聞きました。畑には季節毎の野菜が実り、これからはHさんも進んで畑仕事をしていきたいと話していました。

大地と共に 実りある暮らし

完成現場報告
焼津市／『enの家』
文・写真／コアラボ 山崎健治

綺麗に刈り込まれた生け垣や黒い板壁のある路地、大きな瓦屋根の家、蛙の泣く田んぼや大きな畑。どこか懐かしいと感じてしまう風景ですが、私たちの住む周辺では少し前までどこにでも見られる当たり前の景色でした。しかしこの様な懐かしい風景も年々姿を変え、宅地造成や区画整理、大型複合ショッピングセンターの出店などが進み、少し慌ただしい風景へと変わつてきました。整然と建ち並んだ住宅は一見綺麗で豊かな町並みの様に見えますが、無機質で味気ない建材で作られた住宅はどこか寂しく乾いた風景にも見えてきます。また、コンビニや複合ショッピングセンターなどができた事で欲しい物がいつでも近くで手に入り、毎日の暮らしが便利になった様に思えますが、地域とのつながりや人と人の係わり合い、また食の安全性やモノづくりの大切さなど、視点を変えてみると大切な部分が抜けているようにも思えます。懐かしい風景の中にあつた大切なもの、豊かな時間とは何か？ それぞれの暮らしの中で違い、また変化していくものだと思いますが、大地と共に暮らすHさんの家づくりを通して考えてみたいと思います。



広間の上部はダイナミックな吹抜けになっている。吹抜けは2階の子供室とつながりワンルームで開放的な空間が特徴的。大黒柱は6寸（180mm）角の檜柱。



将来は子供室として使う予定の2階の板の間。広く使うためために屋根形状をそのまま現した天井が特徴的。リズムカルな垂木の配置がとても綺麗。



広間から見る大きな木の窓。緑豊かな畑の風景を望むこの大きな窓が家のシンボル。畑の緑は季節ごとに様々な実りを付け、風景と共に食の楽しみも与えてくれる。

家族と共に育つ家

すでに半年程お住まいになっている『e nの家』ですが、実はまだ未完成の部分が残っています。設計当初から新ストーブの設置や子供室の間仕切りなどの計画がありますが、これは暮らしながらじっくりと考えていこうと言う事で準備のみされています。

家づくりを進めて行く中で誰もが一度は頭を悩ます建築コスト。予算を決め、その範囲の中で最大限の希望に合った家づくりを行いたいと考えると思いますが、やはりどこかを削ったり仕様を変えたりしなくてはいけない部分が出てきます。コストダウンを検討する事はあまり楽しい打合せとは行きませんが、本当に必要なか？ 見た目だけに捕われていないか？ などを考え直す良い機会にもなります。そして、今の暮らしと将来の暮らしを考え、優先順位を付けながら整えていく事も大切だと思います。

『e nの家』も打合せの最終段階でコストダウンに悩みました。自分たちの暮らしに大切なのは何処か？ 今の生活と将来の暮らしを考え、準備のみ整えておける場所か？ 様々な案もありましたが最後まで悩んだのが新ストーブの設置。家づくりの当初から希望していた新ストーブを諦めるのは辛いですが、設置するとなると予算的にも大きくその他を削らなくてはいいけない。H

素材の力と場の力

『e nの家』の大きな特徴は何と言っても南面の窓から見える緑いっぱい畑の景色。植木の庭とは違い、生い茂った野菜の葉が敷地一面に広がっています。お隣さんからの視線も気にならないと言う事で、天気の良い昼間には大きな窓を全開にして過ごしているようです。計画当初、最後までこだわったのがこの大きな窓でした。畑の景色を室内に取り込み伸び伸びと開放的に暮らしたい。Hさんご夫婦揃っての強い希



6尺の床の間と吊り押入が並んだ和室。現在は家族の寝室として使っているこの和室はHさんの精神の場としても大切な空間。開放的な他の空間と違い、静かな時間が流れている。

望でした。最終段階でのコスト調整の際にもこの窓のこだわりは強く、その他を少し我慢してでも大きく解放できる窓を作りたいたと最終まであきらめず頑張っていたきました。木で作られた大きな窓自体を見るととても特別な作りに見えますが、家の中から見る景色はごく自然な景色で、すでに家の一部としてこの家に馴染んでいるなど感じました。

大きな窓をはじめ開放的な作りが特徴的なお宅ですが、素材の力を生かした家づくりを目標に掲げ、Hさんと共にじっくりと計画していきました。中でも屋根の作り方にこだわり、下から見上げる天井の見え方を工夫しました。通常は屋根の下地として隠れてしまう垂木を室内に現し、格子のようなりズミカルな雰囲気を感じられる天井にしました。また、垂木間の光の陰影がとても綺麗で、力強さと共に、木材ならではの優しく温かな雰囲気を感じられる室内になったと思います。その他、寝室として使う和室の壁を淡路島の土で仕上げました。土の色だけでなく、微妙な凹凸やスサの陰影が綺麗で、広間などに比べて落ち着いた感じのある雰囲気になりました。和室にはHさんたちの希望で床の間を設けました。現代では省かれてしまう事の多い床の間ですが、この家の精神的な場所として大切にしたいと考え、十分な広さをもった6尺の床の間を設けました。

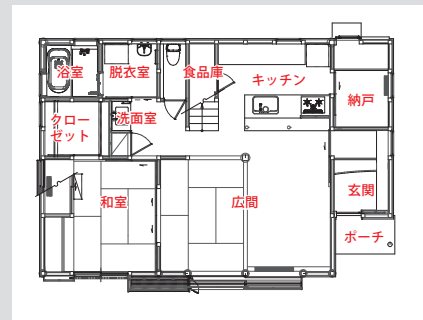
さんと色々と相談する中、今回採用した方法を考えました。従来屋根工事に合わせて一緒に行う煙突工事ですが、板金でチムニー煙突の様な立ち上がり部分を作り、一旦はそこに屋根材で作った蓋をしておく。後でこの蓋の部分を取り替えて煙突を設置する。この方式にする事で実は煙突の取り替えやメンテナンスにも役立ち一石二鳥。現在ではすべての煙突工事にこの方式を採用しています。コストダウンで悩んだ結果新しい案も浮かび、今後につながる良い機会にもなりました。

その他、子供達の成長に合わせて建具を配置するためにあらかじめ敷居と鴨居のみを設け、いつでも簡単に建具が取り付けられる準備ができています。これもコストダウンのひとつだと思いますが、今は必要無くても将来必要になった時の事を考えて準備しておく事も大切だと思います。お子さんの成長に合わせて、また家族の暮らしに合わせて、少しずつ必要なものを取り付け、家族の成長と共に家を育てていくのも楽しみのひとつですね。

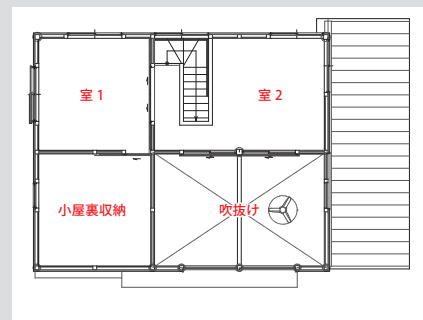




懐かしい雰囲気を感じる広間の畳コーナー。丸いちゃぶ台はココラボ通信設置店のバーズさんに作ってもらった。今はこのちゃぶ台で食事していると話していたが、大きなちゃぶ台なので様々な用途に使用できてとても便利と話していた。



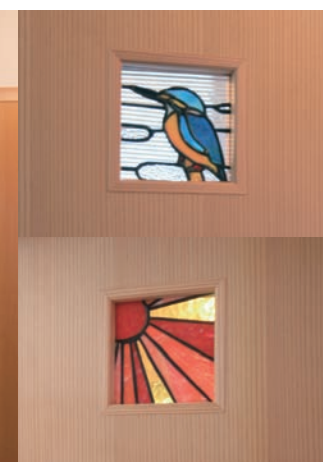
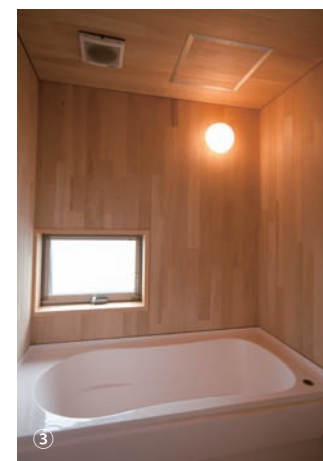
1F 平面図



2F 平面図

仕様内容

家族構成	家族 5 人
敷地面積	334.51 m ²
建築面積	84.14 m ²
延べ床面積	122.56 m ²
構法	在来構法 2階建て
外部仕上	屋根 ガルバリウム鋼板 縦ハゼ葺き 外壁 ガルバリウム鋼板 外部建具 木製オリジナル建具 桧 ペアガラス + アルミサッシ (ペアガラス)
内部仕上	天井仕上 杉板本実張り 厚 12mm 壁 クロス貼り 土塗り壁 (淡路島産) 床 桧本実板張り 厚 15mm 内部建具 オリジナル木製建具
設備	キッチン オリジナルキッチン 洗面化粧台 オリジナル化粧台 浴室 ハーフユニットバス : 日比野化学工業
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成 25 年 3 月



暮らしを支える空間とポイント

家づくりの中で、その家の核となる広間などの空間づくりも大切ですが、玄関やキッチン、浴室や洗面室などの空間づくりも快適な暮らしを支える重要なポイントです。また、それらの天井の高さや素材の選定、また、動線や収納計画に合せた造作家具の配置やデザインも忘れてはいけません。『en の家』を通じて毎日を快適に暮らして行くための空間とポイントをご紹介します。

① **キッチン**／子育てとお仕事を両立している奥さん。毎日忙しい中でも時間を有効に使うためにキッチン前にカウンターを設け、家事をやりつもお子さんの勉強を見たり軽食がとれるようにした。キッチンは裏の動線で納戸とつながり、土のついた野菜などの食品庫としても利用している。

② **洗面コーナー**／ホールの一隅に設けた洗面コーナー。洗面カウンターを設けただけのシンプルな作りだが、隣の収納スペースと合わせて工夫して利用している。脱衣室の中に洗面化粧台を設けるプランも多いが、独立している事でいつでも利用できてとても便利。

③ **サワラ板の浴室**／浴室はハーフユニットバスを利用したサワラ板の浴室とした。壁と天井に張ったサワラ板の木目が優しい雰囲気を出し、サワラ独特の甘くさわやかな香りが心地よい浴室。

④ **ステンドグラスの小窓**／脱衣室とトイレの入口建具にステンドグラスの小窓を設けた。ステンドグラスは奥さんのお友達の作品。綺麗な川に住むというカワセミと太陽がモチーフ。部屋の目印としても楽しく解りやすい工夫ですね。

⑤ **玄関土間とホール**／ご両親の住む母屋との行き来を考えて東南の角に玄関を設けた。屋根の勾配をそのまま現し、少し低めの落ち着いた玄関とした。式台にはセンの耳付き板を使用し自然の風合いの残る式台となった。



「土のチカラはすごいね」

Hさんは会話の中でたびたび「土の力はすごいね!」と話してくれます。大地に撒いた種が芽を出し、そしてどんどん成長し実をつけていく。畑の様子を目の前で見ているHさんならではのお話だと思いますが、野菜も花もそして木も、大地の力によって成長し、我々に大きな恵みを与えてくれます。現代の生活の中ではその恵みだけをいただいて当たり前のように暮らし、モノを手軽に手に入れる事のできる暮らしが豊かな暮らしだと勘違いしているのかもしれない。今回『en の家』の建築を通して、実りある大地と共に暮らす大切さを感じ、合せて、本来の豊かな暮らしの原点を見る様な感じがしました。大きな土地を購入して畑を作る事は簡単ではありませんが、小さな敷地の中に菜園を設け、細やかでも実りを楽しみにする暮らしをしてみたいと思いました。Hさん、ナスありがとうございました。スタッフ皆で頂きました。

